

平成21年11月 (2009年) No.527

発表会シーズンに想う

会長 合原 一夫

秋は各地とも文化祭や体育祭に混じって映像発表会がよく行われています。できるだけ見に行く様にしているのですが、それぞれに特徴があり関心が湧きます。言えることは、どのクラブも会員の年齢が上がってきた、ということでしょうか。なかには新作がもうできないからと8ミリフィルム時代の作品が出ていたりします。プロジェクターが明るくなりましたので、むかしの8ミリ時代の暗いスクリーンとは違って明るさは抜群で鑑賞に堪えますが、古い作品を出す時は、当時の世相を表わす記録作品みたいなものですと、時代を超えて共感を覚えますが、評価はさて？

一方、最近の横長のハイビジョン等の上映に対応していないスクリーンしかない会場での発表会もありましたが、せっかくハイビジョンで作っておられるのにタテ長の人物になっていたりで残念でした。

また、作品が終了するたびに司会者のところだけ明るくして、観客席は真暗のまま、という会場もありました。上映の途中で入場された方々が、この作品が終わったら空いた席を見つけて座ろうとされている方は、足元が暗くてまごまごされていること、それよりもせっかく頂いているプログラムが場内が明るくならないので役に立たない、ということもありました。

発表会はやはり観客の立場になって運営すべきです。司会者もアマチュア映像のことを全くご存じないプロの方が登場することもあります。作者のコメントを読み上げるだけで、言葉つきはさすがにきれいで聞き易いのですが暖かさが伝わってきません。下手でもいいから仲間を知りつくした人が自分の声で司会したほうが観客に訴えるものがある筈だと感じました。

しかしどのクラブも高齢化と会員数の減少、新しい人が入って来ないという悩みは共通のようですが、その中でよく頑張って発表会を続けておられると感慨深いものがあります。

11月例会のお知らせ

11月例会は第4土曜日28日18時より、大阪市立難波市民学習センター（JRなんば駅上OCATビル4階）にて開催。皆様のお越しをお待ちしております。月1回の例会日、楽しいひとときをどうぞ。

10月例会のレポート

例会日の午後、ビデオサークル堺と映像きしわだの映像発表会がありました。堺の方は毎年のことで OMC 会員が多数行かれて観させて頂いています。一方映像きしわだの方は遅れてプログラムが来ましたので予定を組めませんでした。同じ日時に行われることはお互いに不運のことです。せっかく連盟組織があるのだから、話し合っただけでかち合わない様にしたいものです。今月の司会、合原氏、書記、安居氏、上映は増池、江村の両氏、受付兼照明係は宮崎、渡辺の両氏の担当で会を進行しました。

■出席者：天草、有村、井上、江村、岡本、紙本、河合、河口、黒田、合原、進藤、関、西井、錦、西村、華岡、藤原、前田、増池、対馬、宮井、宮崎、森下、安居、山本、吉岡、渡辺の27氏と作品17本でした。

■上映作品(今月の講評は安居世話役です)

1. 流された橋 (W)

増池 茂さん 7分

京都八幡の木津川にかかる木製の「流れ橋」は時代劇の撮影現場によく登場します。それが今回の台風18号による増水で流されました。その2日後、現場を撮影されたのです。「流された橋」の現状を見るのは、初めてです。半分壊れた橋の上を器用に駆け回る子供たち、橋桁だけの残骸、なかなか迫力があります。しかしインターネットから採られた元の橋のカット(少し多すぎる)と「流された橋」のつなぎ方、つまり全体構成を再考されると素晴らしい作品になるのではないかと司会者からの提言がありました。

2. メタボ猿・その後 (HDV)

安居利次さん 6分40秒

昨年メタボという言葉がはやり、堺大浜公園にいるメタボ猿がメディアに取り上げられました。今回行ってみると猿島はなく鉄柵におおわれて人間が餌をやれないようになっていました。その甲斐あってかマークしていたメタボ猿もスマートになっていましたが、傷を負い猿仲間から人気を失っていました。ボス争いに敗れたようです。メディアに翻弄された悲しいメタボ猿のその

後でした。

3. 白川郷どぶろく祭 (HDV)

西井 学さん 5分

土地の女の人が白川郷の歴史を語っています。平家の落人が合掌作りの家を建て秘かに世を生きぬいてきたと、それが10月の祭の時、神社の境内だけでどぶろくを飲むことが許されたといひます。今ではその祭を見ようと全国から人が集まります。その様子を撮影されましたが、出来れば、「白川郷」と「どぶろく祭」のつながりを説明していただければ、作品に厚みが増したのではないのでしょうか。

4. 雨の上高地 (HDV)

渡辺雄史さん 5分40秒

大正池からかっぱ橋まで撮影に4時間もあると喜んで出かけられましたが、あいにく全行程雨、テープに撮ることが出来たのはわずか17分だったとか、「お天気ならば穂高連邦が望める」残念節がカットのスーパーに入り渡辺さんの思いが伝わってきました。逆に17分から凝縮した5分40秒です。「雨の上高地」の印象がいつまでも残る作品になったのではないのでしょうか、ズームバックのカットが少し多かったのではないかと司会者から指摘がありました。

5. シェーンブルン宮殿 (HDV)

井上勝彦さん 8分21秒

ハプスブルグ王朝の桁外れの華麗さに圧倒される宮殿です。奥様のナレーションのうまさといひまって最近のNHK高校講座世界史の世界(最近の教育TVは写真やVTRで面白く良く解る)に入っているような気がしました、悲劇の王妃「マリーアントワネット」、「会議は踊る」記憶に残る固有名詞が出てくると興味がひかれます。もう一歩進んで井上さんの主観の入った構成になればもっと親近感が生まれるのではないかと想像しました。

6. ドンデン山散策 (HDV)

進藤信男さん 7分01秒

佐渡には今回で3度目だそうです。昔鍛冶屋さんが多くその音からドンデン山と名づけられたとか、ただただ、だだびろい山頂ですね。奥様と一緒に歩かれています、

お互いにカットを撮られているので山の様子がよくわかります。ここは花の百名山でもあるとか、野生の花も丁寧に収録されていました。フェリーでこられた港からドンデン山までのコースを地図上で明示されればドンデン山散策の具体性が出てより良い作品になるのではないのでしょうか。

7. 那智大滝 (HDV)

天草 稔さん 7分29秒

落差133mの那智大滝は何度見ても迫力があります。昔の人が神として祭った気持ちがよく解ります。休日だったのか大勢の人が大滝を見るために訪れています。作者は長回しのカットで人の行列を表現されています。1カットはいいのですが、それが続くと少し、「しんどい」ように思います。それと拝所で滝を見上げている人々のカットを、もう少し短くし、ぱっと切り替えて滝の全体像のカットを入れると引き締まるのではないかなと思いました。ナレーションなしで7分半、見せるのは難しいですが全体としてよく撮れていると思います。私ももう一度撮りに行ってみたい気がしました。

8. まごわやさしい (HDV)

宮井 健さん 3分20秒

タイトルを普通「孫は優しい」と解釈しますが宮井さんの作品には「孫」は顔を出さないのです。「ま」は豆、「ご」はごまというように材料食品のカシラ文字でその食品を使った料理が画面に出ます。次の「わ」はわかめでした。見ている者にとって完全に肩すかしを食らった作品でした。またここが作者の狙いでもあったようです。ここまでやるならラストの画面、料理をタイトル通り並べてほしかったです。それにしても計算された構成と演出はさすがです。拍手！

9. 八日市大風まつり (HDV)

宮崎喜代子さん 8分56秒

OMC撮影会作品です。当時コンテストに間にあわなかったとかで今回もってこられました。仲間のコンテスト作品を見ているのでそれとのつい比較してしまいます。しかし、宮崎さんの作品は上手な独特のナレーションで言いたいことをはっきり

主張されています。大阪の凧「湊標」の風にひかれている糸を持って自分で凧揚げを実感されました。圧巻は大凧の上がる瞬間をアップで見事に捕らえられたところです。思わず息を呑みました。これならコンテストに出品されていたらい線までいったのではないかと思います。

10. 学生的旅行inトルコ (HDV)

山本正夢さん 10分

人種の違う大学生3人の旅行をお父さんの山本さんが同行して撮影されました。紹介映像でレイモンさんが息子さんのようです。ニハルさん(女性)とステファンさん(ドイツ人)と一緒にレンタカーを使い南トルコからイスタンブールまで10日間の旅の様子です。山本さんの撮影技術も素晴らしく珍しいカットを要領よく編集されているので、10分間があつという間でした。学生であるが故のけちけち旅行の実態もよくわかりました。島国根性のわれわれには想像もつかない旅のビデオでした。喝采！

11. 三内丸山遺跡 (HDV)

紙本 勝さん 10分

縄文時代の大きな遺跡です。古代史に興味がある筆者は目を丸くして見せてもらいました。

名前は以前から知っていましたが、発掘の結果、国の特別史跡に指定されたのが平成12年のことらしくマニア以外はあまり関心がないのかも知れません。しかしこうゆう史跡は復元建築が重要です。竪穴住居、高床式倉庫、など広くに散らばった復元の建物を見ていると4000年から5000年前の世界にいるよう気持ちにさせられました。音声合成の女性のナレーションが前回より違和感なく感じられ紙本さんの世界に引きづり込むのに役立っているように思いました。

12. えびす万灯籠 (HDV)

吉岡貞夫さん 10分10秒

西宮神社の「えびす万灯籠」は7月20日に行われたそうです。8月に出された作品のカットを大幅に入れ替え再編集されました。その効果があつて前回と時間は同じでも短く感じられたという声がありまし

た。西宮神社から頼まれたビデオはカットの省略は許されませんので後は編集の技術が物を言うこととなります。聞くところによるとある期日、神社内で吉岡さんのビデオがエンドレスで流れているとか、そうなるややはり再編集してでもがんばりたくなりますね。成功してよかったです。

13. 08 YOSAKOI (HDV)

江村一郎さん 7分10秒

江村さんの「よさこい」は、ほんと、何十回も見せてもらっているのに毎回新鮮な感覚で魅せられてしまうのは何があるのか考えてしまいます。それは全体の「流れ・波」とその間の「間(ま)」かなと思えました。作品を完全なものに仕上げるのに「音」も大切です。一度撮影に行った経験では「音」ひとつをとっていても現場の大音響の音割れをどうするか難しい問題でした。現場音とCDの音の組み合わせも編集での難しい問題です。そこにアップの人物のカットが入っても口の動きに不自然さはありません。このあたりが江村さんの「すごさ」だと改めて感心しました。

14. カミとの絆 (HDV)

河合源七郎さん 13分27秒

作者の主張によると「カミをまつる」ところから祭は始まったとか。年に一度「あらゆるカミ」を慰めるため村人全員で神輿を出し、芸能を奉納してカミと共に過ごす、祭りの原点がここにあるとか、カミとの交わりの接点に巫女を置くことが多いが、長浜の祭りは子供を媒介にするそうです。いわゆる子供歌舞伎。具体的に長浜祭りを描きながら河合さんの解説は続きます。12基の曳き山が並ぶ夕方、その姿は壮観です。「ここまで祭りを盛り上げるのは大変でしょう」と河合の問いに、答えはただ一言「伝統ですから」。世の中が変わっても「カミとの絆」は変わらないようです。このタイトルの作者の作品も続くそうです。

15. 女の子ひとり (HDV)

前田茂夫さん 7分50秒

餘部鉄橋を背景にお寺の境内に鉄棒があります。女の子が一人その鉄棒で遊んでいます。そばでお地藏さんがやさしくその子を見守っています。これだけの舞台装置で

会話もなくよく7分50秒飽きさせず見せる前田さんの「わざ」に感服しました。ビデオを見ている人が女の子の動作を見てそれぞれの人が自分と重ねて勝手に思いをめぐらしているのではないのでしょうか。見ている人の想像が主体になるので飽きない。ひとり遊びを題材にしたビデオははじめてです。面白いところに焦点を合わされたね、余部まで行ったからこそ撮れた素晴らしい作品なのかも知れません。

16. 競艶・花と案山子 (HDV)

有村 博さん 6分04秒

曼珠沙華を撮りに行かれた時、あの案山子コンテストが開かれていたそうです。これまで案山子コンテストは何人かが作品にしておられました。今回の真っ赤な秋の彼岸花と案山子のコラボレーションは編集の妙によって成功していると思います。いままでの作品では案山子から案山子に場面転換するのが大変でしたが(同じ案山子が続くので)その「間」に彼岸花を入れることで抵抗なくビデオがつながっていきます。曼珠沙華も自己主張の強い花ですから主役の案山子に負けていません。そこでタイトルの「競艶」という意味が出てくるのか、成程と思いました。

17. ハロン湾 (HDV)

関 強さん 9分20秒

ベトナム北部トンキン湾にある世界遺産です。石灰岩台地が沈降して風化によってこの景観が作りだされているようです。クルーズ船から関さん独特のカメラ視線で撮られているので、素晴らしい光景です。昔中国がベトナムに侵攻した時龍の親子が現れ敵を破り口から吐きだした宝石が湾内の島々になったという伝承が素直に受け入れられそうです。水上生活者を近くで撮っておられますがそれを見ていると7000年前新石器時代に島々に人類が住んでいた痕跡があるというのも納得できます。大昔、ここは魚もよく採れ鍾乳洞もあり住みよいところだったのですね。

河合さんの「祭りのネタのお話(第二回)」はスペースの都合で次回以降に繰り越させていただきます。